

2011.05.09「またも出たパフォーマンス！浜岡原発停止要請」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。今日は5月9日です。ようやく連休も終わり、今日から私も国会に詰めております。

この連休中に菅総理が浜岡発電所を停める要請を中部電力にしました。これもパフォーマンスです。東日本大震災以降、浜岡原子力発電所がいわゆる東海地震の震源域にあり、また海辺に建っておりますから津波の対策は大丈夫なのかということは随分報道されてきました。しかし、この浜岡原子力発電所を停めた後、一体どのように電力を供給するのでしょうか。特にこの浜岡原発は名古屋中京圏の産業拠点に電力を供給する大変重要な発電所です。しかし、そのような対策も一切考えずに唐突的に停止を発表されました。そのことはNHKの7時のニュースに合わせるかのような形で発表され、驚いたことに中部電力に告知したのがその40分前であったというのです。まさに思いつきで、何ら打ち合わせや相談もせずにこの要請を行ったということは明らかであります。このことは法的根拠が無い為、総理大臣の要請だからといっても受け入れる必要は必ずしも無いのです。しかし、前述したようにかねてから浜岡発電所の問題点は報道されており、そのような情勢の中で菅総理が停止を要請するとどういふ事態になるのでしょうか。中部電力はその要請を事実上断ることができなくなる為、浜岡原発停止を決断せざるを得なくなります。しかし、その結果様々な問題が出てきます。例えば電力不足による経済的損失を誰が責任を取るのか、

また原子炉を止めて火力発電所を回す場合、燃料費がかさみ赤字経営になることで株式の配当がなくなったとすると、その責任を誰が取るのでしょうか。株主代表訴訟というやっかいな問題も出てくる可能性もあります。この問題に対して責任を取るべきは、原因を作った菅総理ではありますが、法律上の権限ではありませんから、最後は全ての責任は中部電力の経営陣が取らざるを得ないので。まさに、これは尖閣問題と同じことだと私は感じたわけです。

つまり、中国の漁船の船長を釈放させるという判断をしたのは誰が考えても菅総理で間違いがないわけです。しかし、その圧力を隠す為に、結局地元の那覇地検の次席検事が自らの判断で釈放し、それを了としたということにしてきたわけであります。そして、菅総理が政治決断をしたにも関わらず、責任は現場の次席検事になすりつけて法的な責任は自分に一切無いという態度に終始していますが、今回も全く同じ論理なのです。結局は全ての責任を中部電力に押し付けて、自分はそのきっかけを作ったパフォーマンスで見せ場を作り、支持率のアップを目論んでいるとしか私には思えません。

本当に菅総理がこの問題にきっちり対応するなら、このような判断をする前に、中部電力としっかり協議をしなければなりませんでした。また中部電力だけではなく、産業界、原子力保安院や安全委員会を含め、本当の安全対策をどうするのかということをしつかりと議論してから、実際に停めるのであれば、そのことを裏付ける為に法改正をしなければなりません。そのような事前折衝

もせずに、中部電力側に全ての責任を負わしてしまうのは政治家として無責任過ぎると思うのです。

このように、菅総理がやってきた政治というのはこの期に及んでも自らの政権支持率を上げるためのパフォーマンスに終始しており、しかも最終的にその責任を自分達が一切被らないという、極めて無責任なものです。日本はあくまで法治国家ですから、本来このような法律に基づかない権限などあり得ません。菅総理はそういったことを全く無視してパフォーマンスを続けていますが、このまま、菅総理や民主党政権が一日続けば続くほど日本の国益は失われてしまい、本当の意味で日本の復興はあり得ません。

今日から GW が明けまして、国会の中でも議論がされていきますが、私達自民党はこうした浜岡原発を含めた震災対応も追及していきます。そして、そもそも 3 月 11 日にカレンダーを戻せば、地震がなければ今菅総理は政権の中枢にいることは得なかったはずです。自らの政治とカネの問題や小沢氏や前原氏の問題など様々な民主党に関わる問題がありました。そして、今彼らが政治の中枢にいること自体がおかしいのだと、このことをもう一度国会の場で国民に示していかなければならないと思っております。

これから参議院では毎週金曜日に予算委員会の集中審議を要求しております。その中で菅総理や担当の大臣の問題点をテレビでしっかり指摘して、国民に知らしめなければならないと思っております。私もいずれ予算委員会の中で

質問する機会があると思います。その時は今の菅総理の行き当たりばったりのパフォーマンス政治を糾弾しますので、今後ともご支援よろしくお願いします。

ありがとうございました。